

令和7年1月16日  
千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が12月下旬～1月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

### 千葉県総合防除計画(令和6年3月版)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (12月下旬～1月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
冬春トマト	うどんこ病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/1.64%】(-) 気象予報：日照時間並	<a href="#">30</a>
	オンシツコナジラミ	並	成虫寄生株率(オンシツコナジラミ)：並【0.00%/0.13%】 成虫寄生株率(タバココナジラミ)：並【0.00%/0.08%】 12月黄色粘着トラップ誘殺数：並【0.09頭/0.35頭】	<a href="#">33</a>
	タバココナジラミ	並	気象予報：日照時間並	<a href="#">33</a>
冬春キュウリ	うどんこ病	やや少	発病葉率：やや少【0.60%/9.07%】(-) 気象予報：日照時間並	<a href="#">37</a>
	褐斑病	並	発病葉率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：日照時間並	<a href="#">38</a>
	菌核病	並	果実発病度：並【0.00/0.18】 気象予報：日照時間並	-
	べと病	やや少	発病葉率：少【0.80%/13.25%】(-) 気象予報：日照時間並	<a href="#">39</a>
キャベツ	菌核病	並	発病株率(冬キャベツ)：並【0.00%/0.86%】 発病株率(春キャベツ)：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高(+)降水量並	<a href="#">36</a>
冬レタス	菌核病	並	発病株率：やや少【0.00%/1.31%】(-) 気象予報：気温高(+)降水量並	<a href="#">41</a>
	腐敗病	並	発病株率：並【0.00%/0.22%】 気象予報：気温高(-)降水量並	-

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (12月下旬～1月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イチゴ	うどんこ病	並	発病株率：並【2.40%/3.67%】 気象予報：日照時間並	<a href="#">42</a>
	アザミウマ類	並	成幼虫寄生株率：並【0.27%/0.46%】 気象予報：日照時間並	<a href="#">44</a>
	ハダニ類	やや少	成虫寄生株率：やや少【7.20%/19.84%】（－） 気象予報：日照時間並	<a href="#">45</a>
施設野菜共通	灰色かび病	並	発病株率（冬春トマト）：並【0.00%/0.08%】 "（イチゴ）：並【0.00%/0.05%】 発病果率（冬春キュウリ）：並【0.00%/0.10%】 気象予報：日照時間並	-
カーネーション	立枯病	並	発病株率：並【0.00%/0.56%】 気象予報：日照時間並	-
	アザミウマ類	やや少	成幼虫寄生株率：並【0.00%/0.16%】 12月黄色粘着トラップ誘殺数：少【0.00頭/1.97頭】（－） 気象予報：日照時間並	-
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【0.00%/1.30%】 気象予報：日照時間並	-
ストック	菌核病	並	発病株率（施設ストック）：並【0.00%/0.64%】 "（露地ストック）：並【0.00%/0.32%】 気象予報：気温高（＋）降水量並 日照時間並	-
野菜・花き共通	コナガ	並	12月フェロモントラップ誘殺数：やや少【0.28頭/0.87頭】（－） 10株当たり寄生幼虫蛹数（冬キャベツ）： やや少【0.00頭/0.24頭】（－） "（春キャベツ）：やや少【0.00頭/0.13頭】（－） 幼虫寄生株率（施設ストック）： やや少【0.00%/1.60%】（－） "（露地ストック）： やや少【0.00%/3.48%】（－） 気象予報：気温高（＋）降水量並	<a href="#">45</a>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) コナジラミ類（冬春トマト）

[令和6年度病害虫発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」](#)及び[令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」](#)も参照する。



- (2) 灰色かび病（施設野菜共通）

[令和6年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」](#)も参照する。



## Ⅱ これから注意を要する病害虫

### ナシ 黒星病

ナシ黒星病は、りん片、新梢、葉、葉柄、果実に黒いすすが付いたような病斑を生じる病害である。感染すると落葉や裂果・落果を引き起こし、収量が減少する。罹病した落葉や腋花芽が伝染源となり、3月以降の高温多湿、特に15～25℃で伝染しやすくなる。

令和6年は、5月の発病葉率、発病果率はともに平年並の発生であった（図1・2）。6月の発病果率は1.44%（平年値:0.93%）で平年よりやや多い発生であった（図2）。その後は、発病葉率、発病果率ともにおおむね平年並～やや少ない傾向で推移した（図1・2）。

10月に実施したナシ黒星病の秋型病斑調査では、5～6月に発病があった圃場を中心に、病斑が確認された。

また、12月24日に発表された気象庁の3か月予報（関東甲信地方）では、3月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並の見込みとなっている。このため、3月には気温の上昇と降雨により、感染に好適な条件となり、春から黒星病に感染するリスクが高いと考えられる。

なお、令和6年に黒星病が確認された圃場では、落葉に病原菌が残っている可能性があるため、落葉の除去など、冬季にも対策は必要である。そして、春からはこまめな観察と適切な防除を行い、病気の感染及び拡大を防ぐことが重要である。

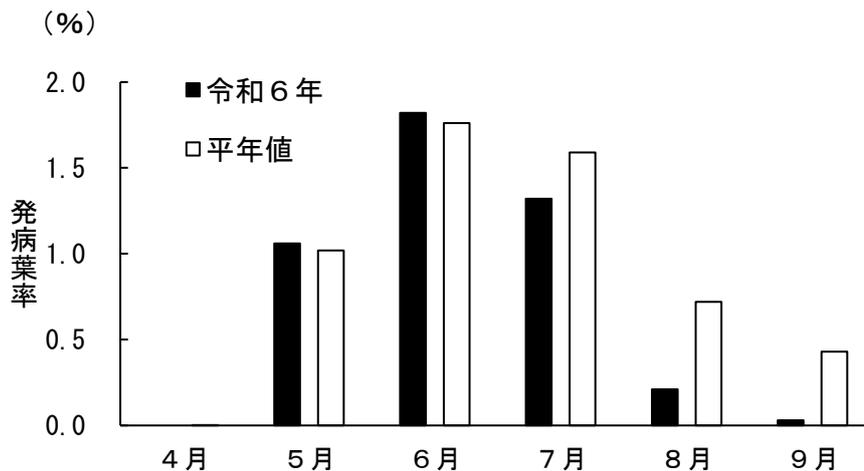


図1 ナシ黒星病の発病葉率（県内34地点の平均）

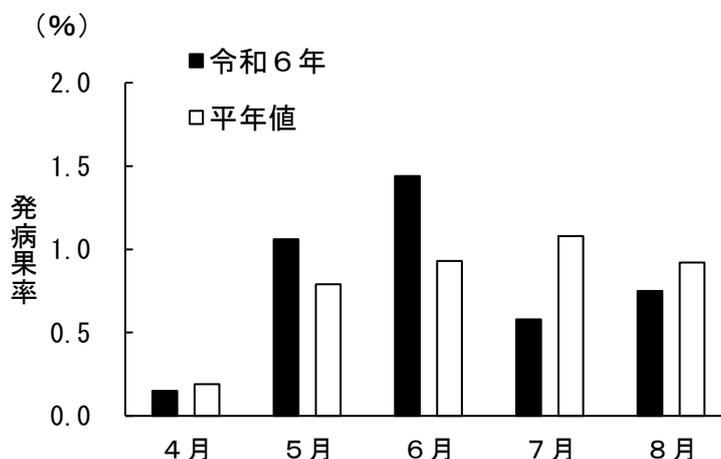


図2 ナシ黒星病の発病果率（県内34地点の平均）

<防除対策>

1 耕種的防除

- (1) 伝染源となる落葉は、集めて園外に埋却するか、粉碎、すき込みなど適切に処分する。  
 (2) 3月下旬～4月上旬では、発病した部位を適宜除去する。この時期の発病した芽基部の除去は黒星病防除に極めて重要である。

2 化学的防除

以下の表を参考に、適期に薬剤防除する。

表 催芽期～摘果期までの防除時期及び薬剤（令和7年1月1日現在）

時期	FRACコード※	薬剤名	希釈倍率	注意事項
催芽期～ 発芽期 3月中旬～ 3月下旬	M4	オーソサイド水和剤80	600～ 1,000倍	前年に黒星病が多発した園では、剪定後の長果枝先端部が催芽～発芽する時期に散布する。ただし、展開葉に薬害の恐れがあるので、散布が遅れないように注意する。 また、ハーベストオイルとの近接散布は避ける。
りん片脱落期 3月下旬～ 4月上旬	M3	チオノックフロアブル 又はトレノックスフロアブル	500倍	デランフロアブルは皮膚のかぶれが問題となる場合があるため注意する。
	M9	又はデランフロアブル	1,000倍	
りん片脱落終了後～開 花直前 4月上旬	3	マネージDF	6,000～ 8,000倍	チオノックフロアブル、トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌の発生リスクが少ない薬剤とされている。
	M3	チオノックフロアブル 又はトレノックスフロアブル	500倍	
受粉終了後 4月中旬～ 4月下旬	3	スコア顆粒水和剤	2,000～ 4,000倍	
	M3	チオノックフロアブル 又はトレノックスフロアブル	500倍	
5月上旬	M3	チオノックフロアブル 又はトレノックスフロアブル	500倍	ファンタジスタ顆粒水和剤は黒星病、心腐れ症(胴枯病菌による)対策のため使用する
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000～ 4,000倍	
5月中旬	M7	ベルコートフロアブル	1,500倍	黒星病の多発生が心配される場合には、ユニックス顆粒水和剤47の2,000倍液(FRACコード:9)とベルコートフロアブル1,500倍液を追加散布する。
摘果期 5月下旬	M1	有機銅フロアブル	1,000倍	有機銅フロアブル剤には、「キノンドー」、「ドキリン」がある。

※ FRACコードとは、殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

### Ⅲ その他情報

#### かんきつ ミカンハダニの冬期防除が必要です

ミカンハダニは、成幼虫が、かんきつ類の葉や果実、緑枝を吸汁加害する。加害が続くと、早期落葉により樹勢が低下するほか、果実の着色が不良となり、商品価値が低下する。本種は冬も休眠せず、かんきつ類では1年を通じて増殖する。

2024年は、秋（9月下旬～11月下旬）の成虫寄生葉率が、平年値と比べて高く推移した（図1）ほか、11月下旬の成虫寄生葉率は、過去11年中3位であり、2023年から連続して多発している（図2）。

また、1月9日に発表された気象庁の1か月予報（関東甲信地方）では、平均気温は高い見込みであることから、本種が増殖可能な環境が続くと考えられる。

以上のことから、昨秋寄生の多かった園地では、春以降の寄生密度が高くなる可能性があるため、冬期防除を行い、寄生密度の低下に努める。

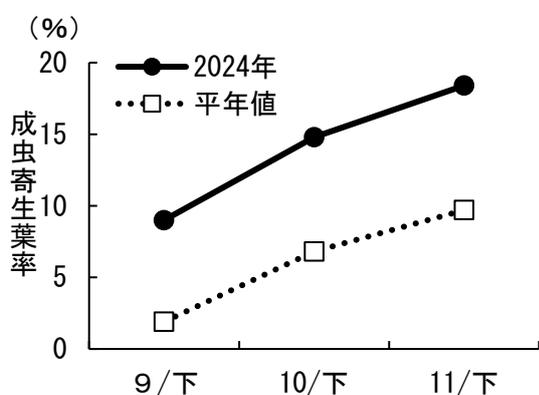


図1 ミカンハダニの成虫寄生葉率の推移（県内5地点の平均）

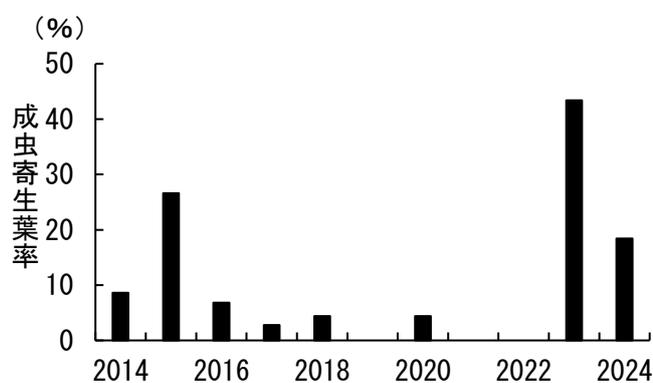


図2 11月下旬におけるミカンハダニの成虫寄生葉率（県内5地点の平均）

#### <防除対策>

- 1 温州ミカンでは12～3月、中・晩生かんきつ類では収穫後（2月下旬～3月上旬）に、マシン油乳剤（97%）60倍液を散布して、初期密度を抑制する。ミカンハダニは葉裏にも多く寄生しているため、マシン油乳剤が葉裏までかかるように丁寧に散布する。
- 2 温州ミカンについて、寒害を受けやすい園地や着花量の少ない園地では、マシン油乳剤（97%）の冬期の散布を避け、4～5月に100～150倍液を散布する。
- 3 樹勢が低下している樹については、落葉を助長する恐れがあるため、マシン油乳剤の散布を控える。
- 4 マシン油乳剤の散布は、散布直後の降雨によって薬剤の効果が低下するため、晴天が続く時を見計らって実施する。
- 5 薬剤の散布むらが発生する原因となるため、剪定により不要な枝葉を除去して過繁茂を抑制する。

○主要病害虫の発生状況 巡回調査結果（野菜：1月上旬、果樹・花き：12月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (長生、海匠)	うどんこ病	発病株率 (%)	0.00	1.64	1.20	頭/30日
	疫病	発病株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	〃	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	すすかび病	発病株率 (%)	3.20	0.18	1.60	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.13	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.80	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.09	0.35	0.30	
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.60	1.60		
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病率 (%)	0.60	9.07	1.00	
	褐斑病	発病率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.18	0.00	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	0.31	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.10	0.00	
	べと病	発病率 (%)	0.80	13.25	19.20	
	オンシツコナジラミ	寄生株率 (%)	0.00	1.47	0.80	
	タバココナジラミ	寄生株率 (%)	14.40	1.18	0.80	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.44	4.00	
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.86	1.00	
	黒腐病	発病度	13.00	2.14	0.75	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.80	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.24	0.00	
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	1.80	0.07	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	12.80	0.70	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.13	0.00	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.27	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	1.31	0.00	
	腐敗病	発病株率 (%)	0.00	0.22	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.96	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	イテゴ (山武、海匠、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	2.40	3.67	
〃	発病果率 (%)	0.04	0.23	0.03		
灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.05	0.00		
〃	発病果率 (%)	0.00	0.00	0.00		
アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	5.07	2.99	5.25		
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.27	0.02	0.00		
アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.27	0.46	0.25		
ハダニ類	成虫寄生株率 (%)	7.20	19.84	8.75		
カーネーション (安房)	萎凋症	発病株率 (%)	1.60	0.32	0.00	頭/30日
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.56	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.64	10.19	5.20	頭/30日
	アザミウマ類	被害株率 (%)	0.00	12.76	12.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	1.97	1.80	
ハダニ類	成虫寄生株率 (%)	0.00	1.30	0.00		
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.64	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	3.20	0.16	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	1.60	4.64	4.80	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.60	1.60	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	0.80	17.74	4.00	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	3.48	0.80	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	2.82	0.80	

\* 黄色粘着トラップ誘殺数は調査日数を30日に換算した値

トラップ月間誘殺数 (12月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.28	0.87	0.08	頭/日

## ○気象予報

1月9日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

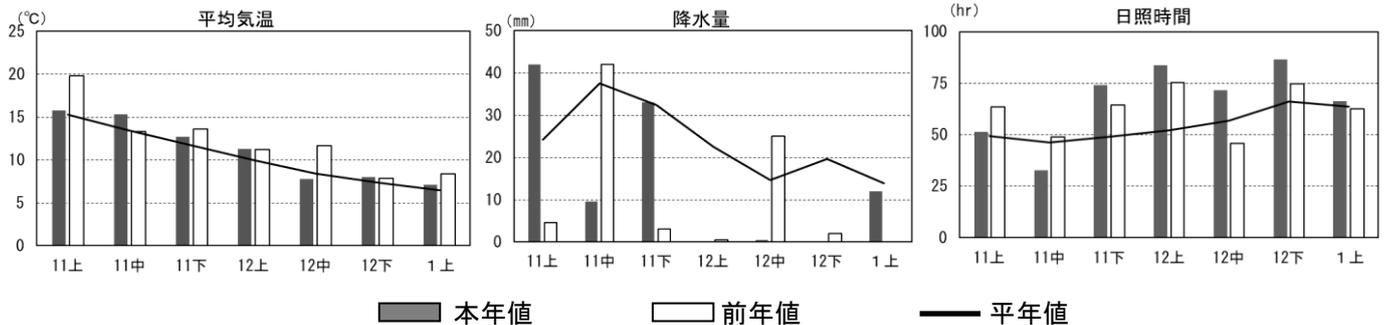
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(1月11日～2月10日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	6.0	6.5	6.3
降水量(mm)	70.9	106.3	81.6
日照時間(hr)	188.5	178.2	173.0



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は3月18日です。  
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

